

[カー用品専科・月刊誌]  
www.cargoodsmagazine.co.jp

後付け電子用品でカーライフの“安らぎ”をGET!

[カーグッズマガジン]



2020

1

January

定価660yen  
(税込み)

2019年11月15日発売  
(毎月17日発売)

# CarGoods Magazine

2020年、  
“カー電”の  
到達地点

# 電撃



# カスタマイズ



## 特集 ハイテック ニューエイジ

- 通信スポット
- 大画面システム
- 洗練、ドラレコ
- 第三の目
- 安心見守り最前線
- 可視化する装置
- “レーザー”探知
- 車内エアー管理
- 遠隔コントロール
- マルチ電源供給
- いぶし銀サポーター



最新の技術、高度な設計、優れた信頼性、  
 門戸を開き、より多くのユーザーに、より多くの選択肢を、  
 今後、さらなる注目が集まる現代車必須の品を、ここで紹介

# カー用品 逸品図鑑

Vol.053 BRIDE ZETA IV / ZIEG IV

まとめ：渡辺大輔

©ブリッド ☎052-689-2611 <https://bride-jp.com>

## BRIDE ZETA IV

価格：9万2000円～



## BRIDE ZIEG IV

価格：10万5000円～



多くの体型で適正にハンス使用をカバーできるようにベルトホールを拡大。同時にショルダー形状をリファインすることで、左右スペースが狭いクルマにも対応するようなデザインを採用する。



背面のクッションは背骨に沿うよう縦方向にステッチを加えることで背中周りの密着度を向上。クッション部の表面に使用する生地を一新することでさらに安定性を高めている。



これまでのジータⅢではローマックスに対応していなかったが、新世代のジータⅣからはシェル形状を一新したことでローマックス仕様へと進化。またシェル形状と素材を見直すことで15%の剛性アップと5%の軽量化を果たす。



バケットシートを装着すると乗り降りの際にサイドサポートを擦ってしまうのは形状的な問題点。そこで擦ってしまいがちなサイドサポートの上部にレザーを採用し、耐摩耗性能をアップしている。

# 設計工程から素材に至るまで完全リニューアル スポーツツシートの新時代幕開けはここから！

## 16年ぶりの刷新で 圧倒的進化を果たす

クルマの中で最も体に接する時間が長く、なおかつその品質次第では座り心地や疲労感までも大きく左右する部品といえはシートだ。そんな自動車用シートの中でもスポーツシートに特化し、世界にも認められるシートメーカーとして信頼を集めるブリッド。そのフルバケットモデルとして多くのファンが愛用するジータが、16年ぶりに完全にリニューアルを果たし11月から

発売が開始された。

第三世代モデルとして2003年のデビューからスポーツカーオーナーに支持されているジータⅢ。その完成度の高さからこれまで手を加えるべき要素がなかったというロングセラーだが、近年の自動車メーカーにおける設計思想の大幅変更などによって見直すタイミングを迎えたという。そこでリニューアルを果たしたのがこのジータⅣというわけだ。

約が大きくなっているという。このカーデザインのトレンドに合わせながら着座ポイントの適正化を促し、さらにホールド性やハンドルの操作性を高めたことが最大の特徴。そのためシェルデザインは完全に一から作り直すことにより、現在の車両設計にマッチすると同時にジータⅢ以上のホールド性を確保しつつ、全体で15%の剛性アップと5%の軽量化を実現している。

また臀部の形状を変更し体が沈み込むサブマリン現象を抑制するとともに、肩甲骨のフィット性を高めることで、安定したドライビングポジションを提供。シェルデザインだけでなく、背部ウレタンは背骨に沿うステッチデザインに変更しつつ、着座部のウレタンに発泡モールドを採用し疲れにくい構造を追求しているのもリニューアルの核心部。ジータⅣから順次取り入れられる刷新部分がベルトホルダーデザイン。これまでのモデルでは体型によって適正位置にベルトがかけられないことも多く、さらにハンスを利用する際にはこのベルト位

置問題が安全性にも直結する可能性もある。そのため多くの体型にジャストフィットするよう、ベルトホールを拡大しているというわけ。まさに設計のすべてを現代流にブラッシュアップしているのだ。機能面の向上はもちろんなバケットシートは乗り降りの際にサイドサポートの生地を傷めてしまうことも多い。そこでジータⅣからは乗降による摩擦を防ぐために、サイドサポート部にレザーを採用。これまで寄せられた多くのユーザーの声を反映し、長く使い続けるための工夫が加えられていることにも注目しておきたいポイントだろう。

ジータⅣと同時にリリースされたジエグⅣは背面のラウンドを大きくすることで、大柄な体格のユーザーでも低い目線位置のドライビングポジションを可能とするモデル。またサイドサポート形状はより深くなり、ホールド性を高めていることからサーキットユーザーにぴったりのアイテムとなっている。

ジャパンブランドだからこそ日本人の体型にぴったりフィットするのはもちろん、細部に至るまで妥協のない作り込みが施された最新モデル。その高い完成度は今後のスポーツシートの指標になるとともに、ロングセラーとして人気を集めることは必至である。